

児童文化研究会 ぽっけ

子どもと絵本の出会いをお手伝いしている「児童文化研究会ぽっけ」。コロナ禍の中でも、伝統の“おはなし会”を守るために奮闘する彼らの姿をレポートします。

原点に戻り、メンバー一同で理想の読み聞かせについて研究

児童文化研究会「ぽっけ」は、等々力キャンパスの前身である東横学園女子短期大学時代から続く歴史ある課外活動団体です。現在は保育士や幼稚園教諭を目指す人間科学部児童学科を中心に構成され、子どもたちに絵本の読み聞かせを行う“おはなし会”を活動の軸にしています。近年はキャンパス近くの尾山台図書館で1ヶ月に2回のペースで開催してきたほか、幼稚園や保育園、デパートなどでも要請に応じてイベントを行ってきました。

しかしこのコロナ禍で状況は一変。課外活動は長く活動休止の状態が続き、活動制限が一部緩和されるようになってからも、子どもたちと直接対面する「おはなし会」はずっと開催できない状態が続いています(2021年12月現在)。

そんな中でもぽっけのメンバーは、前を向いていました。代表を務めた稲山真衣さんは次のように語ります。「今まではおはなし会の回数をこなすことばかりに注力していましたが、この機会に原点に戻って、どういう読み聞かせが子どもたちに本当に有効なのか、もう一度みんなで見つめ直そうと考えたんです」。



21年11月、ようやく対面での課外活動が許されるようになったときの写真。このときに初めてリアルで顔を見たメンバーも多数でした。もちろん感染対策には十分気をつけました。

人間科学部 児童学科
3年・代表
稲山 真衣さん

人間科学部 児童学科
3年・副代表
岩佐 未緒さん

人間科学部 児童学科
2年・次期代表
峯島 彩恵さん

人間科学部 児童学科
2年・次期副代表
大熊 望恵さん



コロナ禍前の「おはなし会」の風景。このように子どもたちと対面で触れ合える日が早く来ますように……。

そして彼らは対面での課外活動が禁止される間、Zoomを駆使して積極的に勉強会を実施。パソコンやスマートフォンの画面を通じて絵本の読み聞かせのコツを後輩たちに伝授するのはなかなか大変でしたが、こうしたオンラインでの活動はモチベーション維持や、メンバー同士の結束を高める上でもたいへん有意義だったようです。



「オンラインおはなし会」のチラシと、2年生がパワーポイントで制作したオリジナルの絵本。なんと絵本はアニメーション付きです。

